

農地環境学特論 (2 単位)

担当者氏名 三原真智人, 藤川智紀

◆学習・教育目標

農地保全、農地管理等に関して、農地における水、土壌、空気、肥料成分、微生物等の物質移動の実態を理解し、持続可能な作物生産のための生産環境づくりについて習得することを目指す。併せて、国内のみならず海外の農地環境についても学習していく。この科目は、必要に応じてバイリンガル（日本語と英語）で実施する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

農地保全
農地管理
海外事例
環境保全

◆授業の進行等について

| | テーマ | 内容 | 授業のねらいまたは準備しておく事項 |
|---|-----------------------|-------------------------------------|---|
| 1 | ガイダンス(第1週) | ・講義の進め方, 課題の解説 | 本授業のねらいは、農地への人為的なインパクトが農地・農村環境のみならず自然環境に与える影響を、物質移動の観点から理解することにある。我が国の食料自給率および農地利用を中心とした農業の現状を捉えておくとともに、持続可能性から農業開発で考慮すべき事項を世界的視野で理解を深めていく。準備として、講義の前提となる地域環境保全学や農地環境工学、土壌物理学の復習が必要である。また教科書および配付する資料を熟読しておく。 |
| 2 | 農業開発と環境保全 (第2~7週) | ・持続的農業について理解を深めるとともに環境評価手法に関して習得する。 | |
| 3 | 農地からの温室効果ガス発生(第8~13週) | ・農地からの温室効果ガス発生のメカニズムと農作業の影響を理解する。 | |
| 4 | テスト(第14週) | ・講義で説明した内容に関するテスト | |
| 5 | 総括(第15週) | ・テストを解説し、これまでの講義を総括する。 | |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
 農地環境工学／山路・塩沢／文永堂（2008年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート 40%、講義中のディスカッションへの寄与 30%、テスト 30%で評価する

◆その他受講上の注意事項

関数電卓、英和辞書、配布された資料等を毎回の授業に持参すること。講義内容に関して質問がある場合は、該当する教員へメールで連絡すること（三原：m-mihara@nodai.ac.jp, 藤川：t3fujika@nodai.ac.jp）。

